

2021. 1. 24 (日) マラキ4：4～6

4:4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。

4:5 見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。」

<説教>

イスラエルの民の主である神は民に向かって「わたしはあなたがたを愛している。」と言われました。(1:2)

実はずっと、何度も何度も繰り返し神はそう言って来られました。

しかし、民は神を見失い、神の愛を見失っていました。

神の愛を疑い、神を侮り軽んじていました。

自分勝手にいい加減なささげ物を神に献げて自己満足し、十分の一のささげ物も献げず、偶像礼拝者たちと雑婚し、自分の妻を離婚していました。

民に律法を教えて、神に正しいささげ物と礼拝を教え、神と人を愛して生きるように民を教えるべき祭司・レビ人たちもその職務を怠っていました。

そのようにイスラエル民は神に対して高ぶり、神の目の前に悪を行い、神を愛さず、人も愛さない歩みをしていました。

「神に仕えるのは無駄だ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の得になろう。今、私たちは高ぶる者を幸せ者と言おう。悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる。」とうそぶいていました(3:14,15)

しかしそんな神の民とは名ばかりで、神の栄光を現すどころか逆に神の名を汚している惨めなイスラエルの民を神はあわれむと言われるのでした。(3:17)

「あなたがたは再び、正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違いを見るようになる。」(3:18)

そのために神が「事を行う」(3:17)と言うのでした。

神が〈行う〉〈事〉とは、御子イエス・キリストをこの世にお送りになる、キリストがこの世に到来されるということです。

そして実際、イエス・キリストはこの世に到来されました。

今の〈この終わりの時には〉神は真の唯一の大祭司、御子イエス・キリストにあって私たちにお語りになるのです。(ヘブル1:1,2)

罪深い神の民(私たち)の中になおも巣くっている〈高ぶり〉〈悪〉—罪—を〈焼き尽く〉す燃える〈かまど〉の火としてイエス・キリストは来られました。

私たちを惑わし、誘惑する悪魔とその手下ども〈高ぶる者〉〈悪を行う者〉、神の敵と戦い、私たちの罪のために十字架で死なれ、よみがえられて、死の力を持つ悪魔を滅ぼす「燃えるかまどの火」としてイエス・キリストはこの世に到来なさいました。

イエス・キリストはそうやって神の義をこの世に私たちに明らかに示す〈義の太陽〉な

るお方です。

そして神の愛をも明らかにお示しになる〈義の太陽〉なるお方です。

イエス・キリストを通して、キリストのみことばとみわざによって私たちは自分の罪深さを思い知り、同時に神がその私たちをあわれみ愛してくださっていることを知るので。

〈正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違い〉とは究極的には「罪なきイエス・キリスト」と「その他の人間（私たち罪人）」との違いです。

しかし、イエス・キリストを信じる者の罪を神は赦し、取り除いてくださり、代わりにイエス・キリストの義を与えてくださいます。

イエス・キリストを信じる私たちは〈キリストとともに十字架につけられ〉（ガラテヤ 2:19）、〈キリストとともに死んだ〉（ローマ 6:8)のです。

そしてよみがえられたイエス・キリストにある、死んでも生きる永遠のいのちを受けており、キリストとともによみがえらせ、キリストのうちにある者として頂きました。

そのようにして、罪人だけキリストにあって〈正しい人〉、もはや罪と悪魔の奴隷ではなく〈神に仕える者〉とされたのです。

〈正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違い〉とは、「イエス・キリストを信じて罪赦されイエス・キリストのうちにいる人」と「イエス・キリストを信ぜず罪赦されずイエス・キリストの外にいる人」との違いということにもなるのです。

今日の父なる神の右に座しておられるイエス・キリストは、御父とともに聖霊を私たちキリストの弟子に送ってくださり、私たちを用いてイエス・キリストのみことばとみわざを宣べ伝えさせ、神の義と愛を明らかに示し、神の栄光を現そうとしておられるのです。

そして天からキリストが再び来られ、つまり再臨なさってこの世の最終審判をなさいます。

世の初めから神は人を愛して来られ、預言者を通してご自身の義と愛を示して来られました。

今の〈この終わりの時には〉キリストの最初の到来によってますますそのことを明らかになさいました。

〈見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。〉（Ⅱコリント 6:2)

その神の恵みに、神の義と愛に私たちが、人間がどう応えて来たかがキリストの再臨のときにすべて明らかにされ神の正しく公正な審判が行われます。

1～3節に書かれていることを〈万軍の主〉(3)が最終的に、完全になさるのです。

〈万軍の主〉神は預言者マラキを通して、約束のメシヤ、初臨のイエス・キリストを待ち望む民にお語りになりました。

4:4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。

私たちも今、再臨のキリストを待ち望む者として、この神のみことばを聞くのです。

〈覚えよ〉とはそのまま、「覚えよ、思い出せ、忘れるな」ということです。

〈ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定め〉〈モーセの律法〉とは、神がイスラエルの民をエジプトから導き出され、エジプトの奴隷から解放して下さったときにシナイ山でモーセにお与えになった十戒を初めとして広くは「モーセ五書」と言われる聖書です。

神はマラキ書の最初でご自分がイスラエルの民を愛しておられること、彼らを選ばれたことを強調しましたが、〈モーセの律法〉も全く同じことを言っているのです。

申命記 7:6-8 〈あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。主があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、主は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。〉

このように、ただ神の義と愛によって救われた神の民が、感謝と喜びをもって神の民にふさわしく神を愛し、人を愛して神の栄光を現し、神に仕え神を礼拝する霊的な、そして具体的な生活の指針・基準が〈モーセの律法〉です。

それはイエス・キリストが教えてくださった（マタイ 22:36-40）ように、「神を愛し、人を愛せよ」ということです。

それは十戒にいわば凝縮されていることです。

あなたがたはただ神の愛、恵み、あわれみによって選ばれ救われたのだから、そのことを覚え、神に感謝して、喜んであなたも神を愛し、あなたが神から愛されたように人をも愛し、神に従い、神の栄光を現しなさい。

また十戒に照らしてみれば、十戒を知れば知るほど自分がどれほど十戒を守れない罪深い者であるかが明らかになるにだから、常に神に立ち返り続けなさい。

それが〈モーセの律法〉です。

しかし、見てきたように、イスラエルの民は神も人も愛さず、また神に逆らい続け、神への立ち返りを拒んでいました。

そんな彼らに、〈見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。〉（4:5）と神は言われました。

〈預言者エリヤ〉と言えば、王以下イスラエルの民が偶像礼拝に墮落していたときに、たった一人でも神に従い、神の栄光を現した大預言者でした。

〈彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。〉（4:6）と神は言われました。

〈父〉である神に対して〈子〉であるイスラエルの民は全く〈尊敬〉せず、重んじることなく逆に軽んじ侮っていました。

そんな神と人との悪い関係は、彼らの人間関係、父子（親子）関係に暗い影を落としていたのです。

見てきたように、彼らは神と人を愛することなく、偶像礼拝者たちと雑婚し、自分の妻を裏切り離縁し、自分勝手にいい加減なさげ物を神に献げて自己満足し、十分の一のさげ物も献げていませんでした。

そんな生き方をしていた〈父の心〉は結局自分のことだけを考えていて、〈子〉（や妻）には全然向いていなかったということでしょう。

口では子どもや妻に神を信じるんだとか神に献げるんだと言っていたとしても、そんな

ことでは〈子〉が〈父〉を尊敬し、重んじるはずがありません。

〈子の心〉は〈父〉から離れる一方だったとしても不思議はありません。

「なんだ、神を信じているってこんなもんか」「親父の言う神なんか、親父と同じ神なんか信じられるか」「信じるにしても親父のようにいい加減でいいのか」みたいなことになったでしょう。

そうやって〈子の心〉は父なる神にも向かわないことになっていたのでしょ。

それでは神の最後の審判のとき神によって〈**聖絶の物として**（新改訳「のろいで」）**打ち滅ぼ**）されるほかありません。

それで神から遣わされた〈**預言者エリヤ**〉が人々にその神を愛さず人を愛さない罪を示します。

神も人も愛さない罪からの救い主イエス・キリストを指し示し、〈父〉にも〈子〉にも神の義と愛を教え、神への立ち返り、悔い改め、イエス・キリストへの信仰を告知するのです。

実際、初臨のイエス・キリストが到来する前に、バプテスマのヨハネが〈**預言者エリヤ**〉として神から世に遣わされて、悔い改めを勧め、キリストを指し示しました。

そして再臨のイエス・キリストの到来の前にも神は〈**預言者エリヤ**〉をお遣わしになっています。

それは私たちひとりひとりです。

私たちもこの罪の世に向かって、その神と人を愛さない罪を示し、悔い改めとイエス・キリストを告げ知らせる〈**預言者エリヤ**〉なのです。

十戒は私たちに罪を示し、また神の義と愛を示し、神の民にふさわしい歩みの基準としていまも有効です。

私たちも〈モーセの律法〉を学び、覚えて、神と人を愛し、イエス・キリストを宣べ伝え、再臨のキリスト待ち望む者なのです。